

団体名	川崎セブンスター
事業名	エンターテインメントの慈善公演

目的・背景	事業の効果
<p>川崎セブンスターは、川崎の地域の方々に笑いと感動を提供することにより、川崎市民の心身の健康と地域内でのコミュニケーションの活性化を促し、ひいては、高齢者・障がい者といったいわゆる社会的弱者を地域全体で支え合うという地域包括ケアシステムが目指す社会の実現を目指している。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>漫才・歌唱・ダンス・腹話術・手品・民話朗読・楽器演奏など多様な演目で、笑いと感動を提供し、地域や福祉施設の方々の心身の健康とコミュニケーションの活性化を図る（市民にもたらす効果）</li> <li>福祉施設の利用者のみならず、施設のスタッフ、利用者の家族に対しても笑いと感動を提供し、業務や介護の負担を軽減し、触れ合うことが楽しいという健全なコミュニケーションの形成づくりの手伝いをする。川崎セブンスターが介入することで、施設内のレクリエーションが充実し、施設の評判が良くなることが期待できる（福祉施設へ与える効果）</li> </ol>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>・公演回数 37回                      ＊公演予定は20回であったが、年度途中でオファーが頻繁に生じ、予定より17回多くなった。ただし、新型コロナウイルス予防のために、3月予定された2公演が中止になった。</p> <p>・演者の人数は、のべ174名                      ＊演者の人数は予定がのべ100名であったが、公演回数が大幅に増えたため、全体として予定人数を大幅にオーバーした。</p> <p>・実施場所は、デイサービス、特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者住宅、生活保護者施設、地域包括センター、地域の敬老会、自治会、葬儀場、認知症カフェ、川崎区・多摩区主催のイベントである。更に、ボランティア公演として、地域のお祭り、地域寄席、かわさき市民活動センターのごえん楽市などがある。</p> <p>・実施対象は、福祉施設の利用者（高齢者・障がい者・生活保護受給者など）、地域の高齢者の方々が中心であったが、多くの福祉施設で、利用者に加えて、スタッフも一緒に公演に参加してもらった。従前より、目標としていた参加型の公演の実現が可能になっている。</p>	<p>次年度以降の経済的自立及び演者とスタッフの組織づくりが最大の課題です。そのために、以下のような事業の展開を考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 高齢者施設、自治会・町内会・商店街のシニア向けのライブ公演の第一人者としての地位を確立するべく今までの活動を継続する。</li> <li>② 笑いや音楽の力を、今後は、高齢者・市民のみではなく、企業・事業者の活性化にも役立てるような事業展開を考えていく。</li> <li>③ 任意団体である川崎セブンスターとは別に、その運営母体としての川崎セブンスター企画（仮称）の法人設立も検討します。川崎セブンスターは社会貢献を実施する団体、川崎セブンスター企画は川崎セブンスターを経済的に支える収益活動を実践する利益団体とする。そうすることで、演者とスタッフのバランスが取れ、スタッフの労力に対しても正当な経済的な配慮が可能となります。</li> </ol>



かわさき民話を愛する会とのコラボイベント



川崎区地域福祉計画シンボル事業



敬老祝いの会(富士見中学校)

団体名	かわさき・食と農のコミュニティ
事業名	C級グルメプロジェクト(～おいC・たのC・Communityづくり～)

目的・背景	事業の効果
<p>川崎市内産農産物「かわさきそだち」は、JAセレサ川崎の大型農産物直売所「セレサモス」(市内 2 店舗)や、スーパー内の地場野菜コーナー、農家の軒先直売所、市民が企画・運営するマルシェなどで販売されている。</p> <p>私たちは、「かわさきそだち」を使った料理コンテスト、料理教室を通じて、多世代の消費者、生産者の「顔が見える関係」を作り、川崎の都市農業を盛り上げていくことを目的に活動をします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・料理交流会は、JAセレサ川崎の大型農産物直売所「セレサモス宮前店」の2階で実施。料理を始める前に1階の直売所で、市内産野菜を目の前に旬の野菜を確認、選び方などを学んだことで、市内産野菜への関心が高まり、参加者同志の交流が活発になり、講師に招いた若手生産者(宮前区)への質問も多数出た。</li> <li>・第2回かわさきC級グルメコンテストは、ここ数年、小学生、高校生の食育の視点からの応募が増えてきたことで、今期から表彰を高校生以下のジュニア部門とおとな部門に分けたことで、前者はネーミング、後者は時代に即したエコ、食品ロスを減らすの視点がクリアになった。今年度もJAセレサ川崎の後援を得られた。</li> </ul>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>1. かわさきC級グルメコンテスト受賞者による季節の野菜を使った料理交流会</p> <p>○11月18日</p> <p>かわさきC級グルメ料理交流会</p> <p>2. 第2回かわさきC級グルメコンテスト二次審査会</p> <p>○1月25日</p> <p>43作品応募から一次審査通過の9作品でコンテスト開催</p> <p>ジュニア部門(高校生以下) 4作品</p> <p>おとな部門 5作品</p>	<p>1. 料理教室、コンテストともに、会場はJAセレサ川崎の「セレサモス宮前店」の2階。1階の直売場に並ぶ季節の市内産野菜と事業を結びつけたことは、農産物を身近に感じることができて生産者との交流も活発になった。この形式は、方法を検討しながら今後も続けていく。</p> <p>2. コンテストには市内中原区以外の6区からの応募が得られた。認知経路は、生徒→先生、高校生の妹→大学生の姉、先生→生徒、生産者の奥さんと畑に通う主婦仲間と、それぞれが「C級グルメを伝えたい気持ち」を介していた。「おいC・たのC・Communityづくり」の趣旨に賛同した人同志の伝達が生まれている。ここを活動の柱として、柱が何本もたつように努めていきたい。</p>



生産者(左)がアシスタントに優秀賞受賞



高校生と教師が奮闘中



小学生、高校生、大学生、主婦が一堂に

団体名	川崎パパ塾
事業名	パパの地域活動促進事業(地域でシェアする子育て市場)

目的・背景	事業の効果
<p>パパ主導「地域でシェアする子育て社会」の創造 地域でシェアする子育て社会とは？ 「子育てはファミリー世代だけの問題ではなく、地域全体の課題として子育てに取り組む社会のこと」</p>	<p>■パパ本人 ※現状: ママ任せの子育て、地域の子供達へは無関心 ※改善: ママと子育てシェア、地域の子供達へは関心増</p> <p>■企業 ※現状: 家庭内の子育て市場 ※地域でシェアする子育て市場の価値観を訴求(企業のCSRへの取り組みとして)</p> <p>■地域 パパの地域での活躍を広報し、地域全体へパパの地域活動を訴求する ※手段: ホームページによるレポート告知/他サイトの連携で拡散</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>①家族写真の撮り方&amp;楽しみ方(17名) ②おカネを考える(19名) ③バーベキューはパパのオモテナシ(9名) ④アドラー式子育て(21名) ⑤エバーノート(12名) ⑥パパは遊びの達人(9名) ⑦片付け習慣術(24名) ⑧地域活動は誰の為(12名) ⑨アドラー式子育て【コラボ編】(10名) ⑩料理教室(10名)</p> <p>※過去最高143名</p>	<p>■パパが登場する講座を、さらに増やす(育次の推進) 特別な講師を招くのではなく、地域に住む、等身大のパパに登場していただく講座を今後、増やしていきます。 同じ地域に住むパパ同士、子育てや地域活動を共有し、パパ主導の子育て社会の実現に、より一層、力を注いで行こうと思います。</p> <p>【今後の展望】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度より、自主自立で運営してまいります。</li> <li>・新テーマ: 思春期をテーマに取り組む</li> <li>・講座以外に活動を広げる(寺子屋事業など)</li> </ul>



■片付け習慣術(コスギカレー貸切)



■おカネを考える



■アドラー式子育て

団体名	NPO 法人 川崎スマートライフ推進会
事業名	高齢者の生活向上/生活支援を目的としたモバイル・デバイス活用講座

目的・背景	事業の効果
<p>IT 技術の進化と普及により、現代社会ではインターネットやモバイル・デバイスは日常生活で欠かせないものとなりつつあります。しかし、高齢者の多くはインターネットやモバイル・デバイスを十分に活用できておらず、このままでは IT 化の進む社会インフラから隔絶された存在となってしまう可能性があります。本事業は、高齢者向けの IT 教育という社会的課題を解決するためのもので、高齢者の IT リテラシーの向上を目指し、来る超高齢化社会における高齢者と社会インフラの融合、更に高齢者の日常生活の効率化/円滑化に貢献します。</p>	<p>高齢者はより便利で豊かな生活を手に入れる事が可能となり、それは高齢者の精神的・肉体的な健康促進にも繋がります。また、高齢者の IT リテラシー向上により、医療や介護、福祉といった高齢者向けの各種施策も様々な形で効率化が図れるようになり、行政や自治体、地域コミュニティの各種サービスの品質向上や負担軽減にも繋がります。更に、アクティブな高齢者同士が活発に交流する事で新たなコミュニティが生まれ、それはやがて高齢者社会を支える一つの社会基盤となる可能性があります。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>1) 定期講座として、中原市民館にて計 33 回の講習会を開催。参加者は延べ 700 名以上。</p> <p>2) 以下の各施設で出張セミナーを開催</p> <p>2-1) 幸区さいわい健康福祉プラザ 通年で月 2 回開催、計 22 回開催。 参加者は延べ 1000 名以上。</p> <p>2-2) 宮前区宮前市民館内 Café みやまえ スポットで 2 回開催。参加者は延べ 20 名以上。</p>	<p>依然増加する参加者に対し、対応する講師側の対応人数を増やしていますが、さらなる増員が必要となっており、ボランティアを募集し対応しています。今後も、講師数の安定確保が課題のひとつとなります。</p> <p>また、より広いエリアをカバーできるよう、既存のパソコン教室などに教育コンテンツを提供するなど、活動がより拡大するような活動を実施していく予定です。</p>



さいわい健康福祉プラザでの講習の様子



中原区中原市民館での講習の様子(1)



中原区中原市民館での講習の様子(2)

団体名	THE アート・プロジェクト多文化読み聞かせ
事業名	多文化理解ワークショップ ～みんなで作ろうお話しの世界～

目的・背景	事業の効果
<p>近年、川崎市では、住民増に伴い外国からの移住者、障がいのある方も増加傾向にある。そうした中で同じ地域に暮らしながら、近隣住民の相互理解が少なくなっている。そこで今までの経験を活かし、いろいろな市民が理解し合い、助け合う社会を推進していくことを本事業の目的とする。</p> <p>川崎市を中心に活動するマサカネ一座の協力を得て、相互理解を深め、助け合う社会を推進し、境界線の無い社会を描く演劇を作り、助け合う社会作りを推進する。</p>	<p>・3年目の事業となり、「げきだん・ふしぎな卵」の独立をめざして、活動した。</p> <p>チラシを見た福祉施設から公演の依頼を受け急遽、公演したこと。神奈川新聞に公演についての記事が掲載されたこともあり、川崎市外からの観劇者があったこと、会場を満席にはできなかったが、多文化理解への効果はあったと思う。</p> <p>・ワークショップへの参加者は、ワークショップを通じて、いろいろなことを考え、学び、体験し、大きく成長していることが実感できる。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップには、障がいのある方の方、海外につながる方など、多くの市民の参加を得られた。</li> <li>・公演アンケートからは、障がいのある方の活動の場として、大切な場であるという多くの評価。楽しく、今の時代に合った劇であったといった評価をいただいた。</li> <li>・公演後、来場者の見送りの時、来場者が出演者（障害のある方）に話しかけるなど、交流もあり、市民と障がいのある方との距離を狭めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多文化理解ワークショップ ～みんなで作ろうお話しの世界～ から、障がいのある方、ない方がともに活躍する市民劇団「げきだん・ふしぎな卵」が誕生した。</li> <li>・「げきだん・ふしぎな卵」は良い芝居を作ることを大きな目標に掲げる劇団であり、THE アート・プロジェクト多文化読み聞かせ隊とは目的を異にする。</li> <li>・今後、「げきだん・ふしぎな卵」は米倉日呂登氏が中心として活動していく市民劇団として独立することになった。</li> <li>・「げきだん・ふしぎな卵」の活動を応援しながら、異なる事業を展開しながら、多文化共生理解を進めていきたい。</li> </ul>



ワークショップ(パネルシアター)



ワークショップ(スリランカ舞踊)



はだかの王さまの公演

団体名	子ども伝統文化支援教室
事業名	五色百人一首

目的・背景	事業の効果
<p>1000年を超える時間を継承されてきた日本の大切な伝統文化は、私たちの世代で途絶えさすのではなく、次の世代にも引き継いでいかなければならないものであると考えている。</p> <p>しかし、子どもたちの日常生活で伝統文化に接する機会は多くない。</p> <p>そこで、私たち大人が、子どもたちに伝統文化を接する場を意図的に設けることで、我が国の文化の良さを継承していくことにつながると考えている。</p>	<p>大会後には、</p> <p>「大会に向けて、家で親と兄弟と一緒に百人一首をしている。」</p> <p>「友達と一緒に、学校で百人一首クラブを立ち上げた。」などの感想が寄せられた。</p> <p>子ども達が楽しみながら、主体的に百人一首という日本の伝統文化に関わっていること、いつもとは違った子と対戦をすることで、自分の視野を広げられていることなどの成果を感じている。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>■第1回 五色百人一首大会 実施日時:7月6日 実施場所:生涯学習プラザ 参加者:低学年29名 高学年53名 合計82名</p> <p>■第2回 五色百人一首大会 実施日時:9月29日 実施場所:生涯学習プラザ 参加者:低学年33名 高学年81名 合計114名</p> <p>■第3回 五色百人一首大会 実施日時:11月17日 実施場所:生涯学習プラザ 参加者:低学年55名 高学年65名 合計120名</p> <p>■第4回 五色百人一首大会 実施日時:1月26日 実施場所:川崎市総合自治会館 参加者:低学年31名 高学年50 合計81名</p>	<p>10年ほど前にはじめての大会は、年間1回であった。しかし、現在では、参加者の方の広がりによって、年間4回の開催をすることができた。</p> <p>今後も引き続き大会を開催していきたい。</p> <p>また、地域の商店街やライオンズクラブからの協賛のように、地域、他団体との連携を広げていきたいと考えている。</p>



大会開催報告新聞



タウンニュースに掲載



試合の前と後には握手

団体名	にこにこあおむし人形劇団
事業名	にこにこあおむし人形劇団 高津区保育園巡回公演

目的・背景	事業の効果
<p>平成29年度に開催した事業を見直し、より保育園の需要に合わせた形での事業となる。認可外保育園のように敷地面積や予算においても劇団を呼ぶことが難しい場所に向けての発信及び公演を行う。</p> <p>各園へにこにこあおむしが出向き、その場で公演をする。園の全員が、楽しい時間を共有できるので、公演前後の時間も同じ思いを共有して過ごすことができる。こどもたちは心の中に楽しい種を蓄えられ、保育士自身も心が解放され、充実した保育を目指すことができるきっかけを作る。また公演前の打ちあわせを大事にする。保育園の声を聞き、信頼関係を築いたうえで公演を行う。</p>	<p><b>【効果】</b></p> <p>「日頃の保育に活かせる内容が詰まっていた」</p> <p>「講習会に行くよりも、にこにこあおむしの実践する姿を見る方がわかりやすかった」</p> <p>「0歳から6歳まで園児全員が最後まで集中してみることができているのが、信じられなかった」</p> <p>という感想をいただいた。</p> <p><b>【課題】</b>にこにこあおむしのプログラムを保育園に提供していくプランを実施することとなった。そのプランをたてていく。また、保育園の予算は厳しく、劇団側の提示した金額にはなかなか手が届かない。劇団の経営を考えつつ、これからの公演料やプログラムの組み立て方・人員の配置等を考え直していくことが課題。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>全11公演を、事故なく終えることができた。</p> <p>(1) 打ち合わせの段階で、園の日頃の方針や行事、歌っている歌を調査。当日「いっしょに歌う」ことで会場の一体感が生まれた。</p> <p>(2) 季節ごとに演目を変え、園の日々の生活を絡めた内容のプログラムを提供できた。</p> <p>(3) 保育士さんたちが、食い入るように見てくださった。お誕生日会などの材料が見付かった、前に出てこどもたちと対話するときの様々なヒントがあった、などの感想をいただいた。</p> <p>(4) 次年度より、一つの園で、にこにこあおむしの劇やノウハウを導入して下さることになった。お誕生日会や地域行事で、年数回の訪問が決定している。</p>	<p><b>【課題】</b></p> <p>1園の申し込みがあり、次年度より、にこにこあおむしのプログラムを保育園に提供していくプランを実施することとなった。そのプランをたてていく。</p> <p>また、保育園の予算は厳しく、劇団側の提示した金額にはなかなか手が届かない。劇団の経営を考えつつ、これからの公演料やプログラムの組み立て方・人員の配置等を考え直していくことが課題。</p>



団体名	チームパーキンソン
事業名	PD Cafe(パーキンソン病の方々のリハビリを支援する運動教室)

目的・背景	事業の効果
<p>私たちが発症した 15 年以上前は、パーキンソン病のリハビリテーションは今ほど確立されていなかった。しかし、最近では発症早期の運動やリハビリテーションの有効性が推奨されている。</p> <p>しかし、実際は運動やリハビリテーションを実施及び指導できる施設は少ない。</p> <p>このような背景から平成 29 年 9 月より、早期発症のパーキンソン病患者の運動継続と情報交換、仲間との繋がり作りを目的に運動継続プログラムPDcafeを武蔵小杉にて開始した。</p>	<p>運動の正しい方法知ることや仲間と一緒にいることで、不安なく運動を習慣化させることができる。</p> <p>また、グループワークにより体験談や情報を共有することで、参加者のヘルスリテラシーを高め、多彩で複雑と言われるパーキンソン病の症状に対する問題意識や解決する能力の向上が期待できる。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>定例運動教室ではグループワークにより、参加者同士が意見交換や情報交換することで、日常抱えている不安や問題点を共有し繋がりをつくることで、日々の生活を前向きに捉える動機づけとなっている。</p> <p>また、自主トレ企画の開催により、参加者による生活の工夫や簡単にできる運動の紹介など、参加者の主体性を引き出し、病気に対する問題解決能力を向上させる機会となった。</p>	<p>PDcafeの参加者は登録者人数が述べ90名を超えているが、毎回の参加人数は15名程度であり継続して通えている参加者が少ない。リピーターや参加人数を増やすために参加者の要望を聴取し、要望に沿ったプログラムを考案していく必要がある。</p> <p>また、感染症流行時や災害時の開催中止の連絡を各参加者に漏れなく行えるよう対策を検討していく。</p> <p>自主トレ企画の開催により、参加者の意欲や主体性が高まり参加者同士のつながりも絆が深まってきている。現在、PDcafe参加者と他の患者グループとで協力し、災害時や非常時に互いに助け合える方法を計画している。</p>



運動プログラム



グループワーク



グループワーク

団体名	NPO 法人 シェアドッグスクール
事業名	かわさきボランティアドッグ促進事業

目的・背景	事業の効果
<p>市民が飼い犬を地域の子どもたちと関わる活動に参加することを広めていくことが目的です。</p> <p>市内公園や多摩川河川敷での犬同士のトラブルや子どもとの接触事故を防止しながら、地域の子どもたちへのふれあい体験会を提供できるよう犬と飼い主の「スキルアップ」を支援し、飼い主同士の交流の場を提供しました。</p>	<p>犬飼い主の関心事や困りごと解決などを開催しながら、活動紹介やパンフレットを配布したことで、年1回であってもボランティア犬として参加が継続しており、次年度のこども文化センターや学校などにもぜひ活動に参加との声をいただくことができました。パラリード講習会では、参加費以外に材料販売を行い収入につながりました。生田緑地をお借りしたことで、公園の犬連れお散歩利用におけるマナー啓発ができました。運動会では、通りかかりの人の見学では関心をもってもらえました。犬飼い主の少人数集まりは、屋外の小さなスペース(自宅ガレージ等)でも充分で、空きスペース活用ができました。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>■ふれあい体験会実技講習会</p> <p>6月 一発芸練習会 参加者 2組</p> <p>8月 はじめてわんちゃん実技講習会 参加者 2組</p> <p>11月 目線コントロール撮影会 参加者 3組</p> <p>2月 スキルアップのためのお遊び研究会 参加者 1組</p> <p>3月 試食&amp;動画撮影会 参加者 8組 (室内撮影会を中止し、屋外で実施)</p> <p>■フィールドワーク*3月1回はコロナ防止で中止</p> <p>2月 運動会 生田緑地 12組 15頭 かわさき市民活動センター三星さん視察、株式会社ドッグヴォイスドッグフード協賛</p> <p>■ワンコイン講座</p> <p>7月 「わんちゃんのための熱中症対策セミナー」 8名</p> <p>8月 「パラリード」作りワークショップ 15名</p>	<p>【課題】</p> <p>① 収入→飼い犬課題解決や関心事のより細かい情報提供</p> <p>② 他団体と一緒にイベントの実施→こどもたち参加や見学を発信</p> <p>③ 事業推進させる体制づくり→タスク進行を遅延させない基盤整備</p> <p>④ 他団体との交流→他団体と関係者と情報交換。</p> <p>⑤ 謝金ありきにしない→企業、他団体とのコラボイベントやミニオフ会</p>



団体名	(公財)現代人形劇センター
事業名	アジアの人形劇を通じた異文化理解・交流ワークショップ(学校を中心に)

目的・背景	事業の効果
<p><b>【背景】</b> 川崎市は歴史的に在日朝鮮人、韓国人が多数居住し、近年は労働者も増加するなど、外国人市民の多い土地柄である。いっぽう現在、世界的に移民排斥、ヘイトスピーチなど、外国人に対する不寛容が広がり、日本にも暗い影を落としている。</p> <p><b>【目的】</b> 本事業は、アジアの人形劇と芸能を通じて、未来を担う子どもたちにアジアの隣人への理解を深めてもらうことを目的とする。特に、アジアの伝統人形劇や芸能は、文化の基層にあつて、素朴な信仰心、文学、美術工芸、音楽等、民族文化の結晶。いまも生活に息づく。子どもたちがそれを体感し、精神にも触れることで、異文化への理解と敬意を抱き、アジアの人たちを身近に感じられることをめざす。</p>	<p>○事業目的で述べたように、地域の未来を担う子どもたちを中心に、異文化への理解と敬意が育つ。</p> <p>○その国の芸能を実体験することは、未経験の音、リズム、衣装の色彩、未知の動きと表現を体感でき、多くの書物を通じた知識以上に効果がある。</p> <p>○講師は、外国で生活し、文化を学び、その国の人々に協力し、貢献し、架け橋となっている日本人であるところから、その生き方に触れることそのものがひとつの示唆となる。</p> <p>○日本人を講師とすることは、招聘と異なり、時間と経費の両面から、その機会をつくりやすい。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p><b>【内容】</b> テーマは、南インドの伝統舞踊劇。手指と表情の動き、さらに体全体で感情を表現する。この舞踊劇と伴奏音楽の実演と体験。学校ワークショップ5校と一般向けワークショップ1回を行った。</p> <p>●生活文化紹介→インドの多様な言語、生活(市場や料理)をスライドで紹介。●舞踊劇の映像紹介と実演●舞踊劇と伝統楽器の体験→全員が基本姿勢や、表情、手の表現、伝統音楽のリズム体験を全員で。一部が太鼓の演奏体験。</p> <p><b>【成果】</b>(当日の様子とアンケートより)</p> <p>●生活文化については、各州によって違う言語、「カレーだけでない」食文化の多様に大きく反応。●舞踊劇は、高度な訓練を要する表現に驚きがあり、体験は舞踊劇と楽器ともに「楽しかった」と素直な声が多い。●インドへという国について、「興味がなかった」「印象が薄かった、よくなかった」が、関心が湧いたという声が複数。本来の目的である、異文化への理解と興味を喚起することができたと評価する。</p>	<p><b>【課題】</b> ●昨年第1回は音楽が録音だったが、今回は音楽についても体験してもらいたいと考えて、それが可能な芸能を選んだ。それは成功したと考える。音楽体験は膝を手で打つリズム体験だが、たいへん盛り上がり、身体全体で楽しんでいった。身体体験以上に音楽は多くの子どもたちが入り込めると痛感した。</p> <p>●今回、打楽器は貴重品のため、練習用のものだったが、数が少なく、希望者のみの体験となったが、その分を手拍子、膝打ちなどでカバーして参加性を高め、好評だった。講師の数や人形、楽器など用具の数に制限があるのはやむを得ないと思うので、今後も参加者全員の体験の機会をつくるため、やり方にさまざまな工夫を続けていきたい。</p> <p><b>【今後の展望】</b>●1回目(カンボジアの影絵)に続き、今回も大きな手ごたえを感じたので、国(芸能の種類)を変え、今回の課題にとり組みながら、次回以降も続けていきたい。</p>

		
生活文化(料理)の紹介	実演(演技と演奏)	舞踊劇の表現を全員で体験

団体名	かわさき市民後見をすすめる会
事業名	「地域包括ケアシステム」と連動した地域ネットワークづくりと互助活動の参画

目的・背景	事業の効果
<p>日本は“超高齢社会”(高齢化 28.4%)を迎え、国は「地域包括ケアシステム」の構築を目指している。そこで我々は、“麻生区・多摩区・中原区で誰でも気軽に立ち寄れる地域カフェが増え、いざというときに助け合う社会”を長期目標として、今年度の活動と目的を、以下の通りとした。</p> <p>① 中原区の地域カフェの仲間を増やすために、地域カフェに訪問し実態調査する。そして実態調査結果を会員間で意見交換をしたり、HP等で公開する。</p> <p>② 麻生区・多摩区でもっと地域カフェを増やすために、すでに地域カフェを立ち上げた外部講師を呼び、地域カフェの立ち上げ方法等を教えてもらう(地域事例発表会)。</p> <p>③ 麻生区・多摩区で地域カフェを開催している仲間と密に親密になるために、また団体の知名度をあげるために、出前講座を開催する。</p>	<p>① 調査を通じて、とどろき地域包括支援センターと太いパイプができ、センター長の推薦により、認知症キャラバン・メイト(認知症サポーター養成講座講師の資格)を取得することができた。</p> <p>② 麻生区役所 HP「地域グループ活動一覧」によると、カフェ・茶話会は、1年前 24ヶ所→今年 40ヶ所(1.6倍)に増えた。また、「多摩区認知症カフェ・地域カフェ マップ」によると、多摩区で地域カフェ・認知症カフェの数は1年前 24ヶ所→今年 29ヶ所(1.2倍)に増えた。</p> <p>③ 出前講座をきっかけに、オレンジリング百合丘のメンバーと「ロバくん倶楽部」を結成、認知症サポーターのマスコットであるロバくんをフェルト生地で作る手芸活動を定期的に行っている。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>① 地域カフェ調査として 19 箇所をリストアップして、そのうち 7 箇所の地域カフェを訪問して調査を行った。6 回情報共有会を開き、会員同士で意見交換をした。HP で公開しているカフェは、昨年度分含め 13 ヶ所となった。</p> <p>② 地域事例発表会は、10/20 に牧岡英夫先生を呼んで実施。2 回目、3 月に中原区のカフェ(アマチュアパリス)を呼ぶ方向で準備していたが、新型コロナウイルスの影響で開催を見合わせた。</p> <p>③ 出前講座は 3 回実施した。 5/15 カフェ POP (多摩区) 6/13 おしゃべりサロンぽぽろ (麻生区) 11/15 オレンジリング百合丘 (麻生区)</p>	<p>麻生区・多摩区・中原区では、地域カフェ・認知症カフェが年々増えてきており、“いざというときに助け合う社会”に少しずつ近づいていると感じている。</p> <p>しかし、スタッフ不足、参加者数の減少、スタッフのモチベーション低下、お金の問題など様々な理由により、残念ながらカフェを継続することができず、閉鎖した地域カフェもある。</p> <p>この問題を解決するために、多摩区では実際に「多摩区地域カフェ連絡協議会」が結成されており、話し合いが行われている。麻生区や中原区ではそのような会はないため、麻生区役所地域みまもり支援センターや、とどろき地域包括支援センターなどに働きかけてゆきたい。</p>



いまみな！カフェ(中原区)の様子



地域事例発表会(牧岡英夫先生)



出前講座(おしゃべりサロンぽぽろ)

団体名	一般社団法人 ピッカ
事業名	児童養護施設と周辺地域に於ける文化芸術ダンス及びアート&ミュージックの定期学習と発表会事業

目的・背景	事業の効果
<p>児童養護施設の入所者が、「ダンス」「アート」「音楽」等の文化芸術を学習することは、経済的に非常に困難だ。入所者、及びショートステイ等の利用者、保護者のない児童、虐待されている児童など、環境上養護を要する児童、そして近隣の学校や各種施設の子どもたちに、世界を舞台に活躍している芸術家が直接、中長期間で定期的な指導を行い、最終段階としては舞台上での発表を目指す。単発で一過性のイベント的な機会では無く、持続性を持って指導し、子どもたちに「やり遂げる喜び」を得て貰うことを目指す。興味本位で始めても簡単には出来ないことも多く悔しさも感じるだろう。より真剣に取り組むことへ向き合わないといけない。それらを克服し、1つの目標を達成することで自信を持てるようになる。</p>	<p>文化芸術を学習すること、大きなステージ/舞台に立って発表&amp;お披露目することを、経済的な理由で諦めている子どもたち、そして心に傷を持った子どもたちに、「やり遂げる喜び」を与え、将来の夢や希望を持たせる。</p> <p>また、世界を舞台に活躍する芸術家のパフォーマンスや指導を地域の福祉システムと連動/協働することで、その触れ合いはより市民や各団体に身近に親密になり、子どもの将来が生まれ育った環境で左右されない子どもの貧困対策としても、共生社会を目指すインクルージョンとしても、本事業は1つのモデルケースの推進へと繋がる。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>事前の打ち合わせや、各行事等の都合で、定期学習の実際の開始は9月からになった。定期学習は、9～2月の6カ月間実施。</p> <p>子どもたちの環境、移動手段を考慮し、中心とする会場は川崎愛児園とした。分園等からの参加者は愛児園職員が移動を担当して下さった。</p> <p>3/18の発表会は、新型コロナウイルスの感染状況とそれに伴う政府および関係機関、自治体や川崎市教育委員会の方針に鑑み、中止せざるを得なかったことが残念でならない。</p> <p>6コースで募集し、結果、ダンス、ギター、マジックの3コースでの開催とした。ダンスコース:8名、ギターコース:最初3名/後半4名、マジックコース:7名、で決定/実施</p>	<p>半年間の定期学習の間、一人の挫折者も出ず、全員が最後まで履修を完遂出来た。例えば、ダンスコースの場合、踊る為の課題曲が自分の好みと違う等の理由で積極的になれないケースもあったが、講師とのコミュニケーションを介して改善され、その後皆笑顔で挑めるようになった。ギターコースの場合は個人の技術の差が極端に表れるものであるが、どの生徒も個人練習をしっかりと各自で行っているのが如実に分かり、成長が著しかった。マジックコースの場合は、児童、生徒の集中力がなかなか長続きしないケースも多々あったが、担当の職員の方々との連携を図り、マジックを人前でお披露目することの難しさ、そして大切さから指導することで改善が出来た。最終目標であった発表会の実現と事業実施の原資を賛同企業から得ることを目指す。</p>



ダンスコース 入念にストレッチから！



マジックコース さぁみんなもマスターしよう



ギターコース まずは触ってみよう！

団体名	特定非営利活動法人ワーカーズ・コレクティブメロディー
事業名	常設型 多世代の居場所メロディーココ

目的・背景	事業の効果
<p>社会は経済優先が進む中で少子高齢・人口減少・生産人口の減少が加速し、社会保障も縮小、貧困や孤立の問題が大きくなっています。17年間「参加型福祉」の実践から地域福祉の向上と支えあいたすけあいのまちづくりを進めてきました。人と人とのつながりが薄れ暮らしの不安も増している今、居場所（地域の人との出会いの場、交流する場、助け合いの場）地域のおたがいさまのたすけあいの拠点を常設型で開設しました。</p> <p>「ココに来ると誰かに会える」「ココに来ると誰かと繋がる」をコンセプトに活動の共感を広げて孤立・分断の無い社会で一人ひとりが輝く未来をめざします。</p>	<p>常設型で開設していることから、一日に4回声をかけていく方がいます。一人暮らしの70代の男性です。メロディーココが夏休み等で1週間程休みにすると道路隔てた事業所にこられます。生きていくことに安心感を持っていただけたと感じます。育児中のお母さんが、赤ちゃんが泣き止まないと連れてこられます。どうしたらいいかわからず、外をうろろしてメロディーココに来られました。かわるがわるに赤ちゃんをかわいいね～と抱っこしてあげると、「かわいいね」と言ってもらったことがなかったと涙ぐまれていました。私たちが事業しているディサービスに赤ちゃんを連れていくと、利用者も満面の笑みで喜んでいました。いろいろなつながりが少しずつですが多世代で出来てきました。顔と顔がつながり、信頼関係が築けたら、ささえあいたすけあうまちづくりとなります。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>オープン前から地域エリアにチラシを蒔き、町内会に挨拶に行くものの地域になかなか認知されませんでした。看板を立て、旗も出したりとアピールしても、ドア越しに覗くものの、中にはなかなか気軽に入ってくる方は少なく、試行錯誤を繰り返していました。そこで、多世代のココ食堂を毎月開催することにしました。ボランティアも少しずつですが、毎月参加していただき、人数も増えてきました。また、地域のまちづくりを進めるサークルに加入し活動を広げることにしました。幸盛り上げ隊の方ともつながり、単独ではできないことも多団体と連携することで広がりました。人と人をつなぐを重視してきた私たちが地域でつながることの大切さを学ぶことができました。オープンから1年を過ぎようとしています</p> <p>少しずつですが居場所になってきていると実感をしています。</p>	<p>やはり、事業性はないのでランニングコストで現在は赤字を生み出していることが課題です。助成金、内部留保でためてきたもので現在は赤字を埋めています。これでは5～6年ほどしか継続できません。</p> <p>メロディーココの応援団（賛助会員の拡大、家賃分が補えるように）を拡げるために多様な活動を見える化し共感者を広げていくことが必要です。</p> <p>最初の年度でした開催に追われていましたが、本当に必要としている人に情報が届くようにすること、多世代がつながる場所となるような企画を開催しながら地域の居場所をめざします。</p>



ミニ講座親子でこいのぼりづくり(2019/5/4)



多世代のココ食堂(毎月第4金曜日)



プレオープンイベント湯浅氏の講演会